

A 病院における正常分娩と異常分娩での出産満足度の相異について

key word 出産体験尺度、分娩満足度、初産婦
9階東病棟 ○石月麻衣 計良友美 古田亜実

はじめに

近年我が国では出産時の安全性と快適さの確保に加え、満足できる出産を体験したいと要望する産婦が増えている。また、満足な出産を経験することは、児への愛着感情へつながる。よって、産婦が満足できる出産へと導く助産ケアをおこなっていく必要性がある。

当院はハイリスク妊産婦を受け入れている。そのため、正常な経過をたどっていても途中で異常分娩に移行する場面が多い。このような場合、妊産婦が思い描いていたバースプランと異なる形での分娩となる事例も多い。そこで、分娩様式によって分娩満足度にどのような影響を及ぼすかを明らかにする。

用語の定義

正常分娩：経膈分娩であり、吸引分娩等へ移行しなかったもの。

異常分娩：吸引分娩と緊急帝王切開を指す

I 研究目的

正常分娩を希望していた産婦の分娩様式による分娩満足度の相異について明らかにする。

II 研究方法

1. 対象

正常分娩で出産した初産婦、異常分娩（吸引分娩、緊急帝王切開）で出産した初産婦（ただし正期産に限る）。

2. 調査期間

平成25年8月～12月

3. 調査方法：

出産体験尺度（幸福因子、ボディセンス因子、発見因子、あるがまま因子から構成される）を用い、正常分娩と異常分娩における分娩満足度の相違についてデータを収集する。本来、出産体験尺度は経膈分娩した者を対象に作成された尺度である。本研究では正常分娩の過程で緊急帝王切開に移行した産婦を異常分娩の対象とし、この尺度を利用する。なお、その他に年齢、不妊治療の有無、分娩誘発・促進の有無、児のNICUやGCUの入院の有無について属性を加えた。

4. 分析方法

検定方法はカイ二乗検定にて両群を比較検討する。

III 倫理的配慮

東京医科大学医学倫理審査に申請をし、承諾を得た。対象者には研究の目的、倫理的配慮、及び問い合わせ先を記載した説明文書にて説明し、同意書の記載及び質問紙の記入にて研究同意を得られたと判断した。また、調査対象者の質問紙は研究者が直接回収しプライバシーの保護を厳守した。

IV 結果

1. 年齢別での比較

年齢別では25～34歳が13名、35歳以上が18名であった。

不妊治療の有無に関しては、25～34歳の中で不妊治療をした者が4名、していない者が9名であった。35歳以上の中で不妊治療をした者は3名、していない者は15名であった。

分娩誘発や促進の有無に関しては、25～34歳の中で分娩誘発・促進をした者が7名、していない者が6名であった。35歳以上の中で分娩誘発・促進をした者は7名、していない者が11名であった。

児のNICU・GCU入院の有無に関しては、25～34歳の中で入院をした者が3名、していない者が9名、無回答1名であった。35歳以上の中で入院をした者は1名、していない者が17名であった。

年齢別では、出産体験尺度のすべての項目において有意差は認められなかった

2. 分娩様式での比較

正常分娩で出産した初産婦14名、異常分娩で出産した初産婦17名であった。

不妊治療の有無に関しては、正常分娩の中で不妊治療をした者が3名、していない者が11名であった。異常分娩の中で不妊治療をした者は4名、していない者は13名であった。

分娩誘発や促進の有無に関しては、正常分娩の中で分娩誘発・促進をした者が7名、していない者が7名であった。異常分娩の中で分娩誘発・促進をした者は7名、していない者が10名であった。

児のNICU・GCU入院の有無に関しては、正常分娩の中で入院をした者が4名、していない者が9名、無回答1名であった。異常分娩のものはすべて入院しなかった。

自分らしいお産であったかとの質問項目に対し、正常分娩と異常分娩では有意差が認められた ($p < 0.005$)。お産の間、自分のペース、リズムを感じられたかの質問事項に対し、正常分娩と異常分娩で有意差が認められた。幸福因子・発見因子・あるがまま因子において、正常分娩と異常分娩とではそれぞれで有意差は認められなかった。

正常分娩と異常分娩の産婦では、自分らしいお産だったという思いに違いがあり、異常分娩が正常分娩に対し、より自分らしいお産であると感じている傾向があった。また、お産の間、自分のペース、リズムの感じ方に違いがあり、正常分娩の産婦は自分のペースやリズムを異常分娩の産婦より感じる事が出来ていなかった。

V 考察

先行文献において異常分娩に比べ、正常分娩が満足度の高いお産をしていた。しかし、今回の研究結果では異常分娩が正常分娩に比べ満足度の高いお産をしていた。正常分娩の産婦は自分のお産のイメージがあり、それと異なった場合、自身の理想とするお産と現実の分娩の違いが大きいと感じている可能性がある。妊産婦が出産を自分のこととしてとらえ、自己決定していく過程では、医師や助産師などからどのような関わりが得られたかに大きく影響される。援助者の関わり方次第で、妊産婦は自己の価値観を修正でき、またさらに膨らませることができる。そうすることで、さらに主体的に出産に取り組むことができるのではないかと考えられる。

今回の結果で異常分娩の産婦は正常分娩の産婦に対し、「自分らしいお産だった」「自分のペース、リズムを感じられた」と感じることができていた。大学病院での出産を選んだ女性の主な理由は「緊急時の対応ができる」というもので、第一に安全性を求めている。この2項目は出産体験尺度の中のボディセンス因子に属している。ボディセンス因子はお産の間に体の中で起きていることを感じ取り、自己の体の持つ力を信じて委ねる事が出来たことを評価する因子である。大学病院を選択し受診する妊婦はハイリスクの者も多く、異常分娩に対する理解があると考えられる。また、異常分娩に移行する産婦の場合、何らかの原因はあるが、その説明に納得した上で分娩に臨んでいる可能性がある。それゆえに自分らしいお産だったと受け入れていることが考えられる。女性が豊かな出産体験をすることは、母親になったことで自身の成長を感じられたり、充実感を得られたりするようになる。母親役割に対してより肯定的に捉えられるようになることが認められており、それゆえに、今後は正常分娩の分娩満足度が高められるような助産ケアを検討していく必要がある。

VI 結論

1. 異常分娩の産婦は、「自分らしいお産であった」、「お産の間、自分のペース、リズムを感じられた」ことに関して正常分娩の産婦より満足度が高かった。
2. 年齢別・幸福因子・発見因子・あるがまま因子では各項目に有意差は認められず、分娩満足度に相異はなかった。
3. 異常分娩の産婦が正常分娩の産婦より分娩満足度が高かったことに関しては今後更なる検討が必要である。

参考文献

- 1) 竹原健二, 野口真貴子, 嶋根卓也, 他. 豊かな出産体験がその後の女性の育児に及ぼす心理的な影響. 日本公衛誌. 56 (5), 312-320, 2009.
- 2) 勝山幸子, 三井政子. 母性スコアとバーススコア・分娩満足度との関係. Gifu Journal of Maternal Health. 37, 35-43, 2007.
- 3) 沼田彩, 原田通予. 産婦の満足感に影響する要因についての一考察—ハーツバーグ理論を用いて— (online). WHS. 8, 85-94, 2009.
- 4) 山口さつき, 平山恵美子. 出産体験の自己評価に影響を及ぼす要因. 母性衛生. 52 (1), 160-167, 2011.
- 5) 志村千鶴子. 妊産婦の出産体験の満足感に関連する要因の検討 (online). WHS. 9, 23-32, 2010.
- 6) 上條陽子, 松原美和, 松本あつ子, 他. 帝王切開分娩褥婦の受けとめと満足感. 母性衛生. 40 (1), 68-71, 1999.
- 7) 竹原健二, 野口真貴子, 嶋根卓也, 他. 出産体験尺度作成の試み. 民族衛生. 73 (6), 211-224, 2007.

表1 正常分娩と異常分娩の χ^2 検定結果

○お産は楽しかったですか						
	yes	no				
正常分娩	4	10	14	χ^2	p	
異常分娩	6	10	16	χ^2 検定	0.267857	0.604773 有意差なし
	10	20	30			
○お産の間は幸せな気持ちでしたか						
	yes	no				
正常分娩	6	8	14	χ^2	p	
異常分娩	5	12	17	χ^2 検定	0.606264	0.436198 有意差なし
	11	20	31			
○お産の後すぐ、また産みたいと思いましたか						
	yes	no				
正常分娩	2	12	14	χ^2	p	
異常分娩	5	12	17	χ^2 検定	1.004802	0.316151 有意差なし
	7	24	31			
○お産の間、自分のペース、リズムを感じられましたか						
	yes	no				
正常分娩	4	10	14	χ^2	p	
異常分娩	12	5	17	χ^2 検定	5.427171	0.019826 <u>有意差あり</u>
	16	15	31			
○お産の間、自分を信じることができましたか						
	yes	no				
正常分娩	10	4	14	χ^2	p	
異常分娩	13	4	17	χ^2 検定	0.101936	0.749518 有意差なし
	23	8	31			
○自分らしいお産だったと思いますか						
	yes	no				
正常分娩	7	7	14	χ^2	p	
異常分娩	15	1	16	χ^2 検定	7.308239	0.006864 <u>有意差あり</u>
	22	8	30			
○お産の間、自分の体の中で起きていることが分かりましたか						
	yes	no				
正常分娩	12	2	14	χ^2	p	
異常分娩	12	5	17	χ^2 検定	1.004802	0.316151 有意差なし
	24	7	31			
○お産の間、気持ちはゆったりとしていましたか						
	yes	no				
正常分娩	4	10	14	χ^2	p	
異常分娩	5	12	17	χ^2 検定	0.002631	0.959089 有意差なし
	9	22	31			
○お産をしたことで、知らなかった自分に出会えたという気持ちがありましたか						
	yes	no				
正常分娩	9	5	14	χ^2	p	
異常分娩	13	4	17	χ^2 検定	0.553243	0.456996 有意差なし
	22	9	31			
○お産は自分を見つめることだと感じましたか						
	yes	no				
正常分娩	11	3	14	χ^2	p	
異常分娩	13	4	17	χ^2 検定	0.019383	0.889275 有意差なし
	24	7	31			
○お産の間、自分の境界線がないような気持ちになりましたか						
	yes	no				
正常分娩	4	10	14	χ^2	p	
異常分娩	5	12	17	χ^2 検定	0.002631	0.959089 有意差なし
	9	22	31			
○何か大きな力が働いていて、それに動かされているような気がしましたか						
	yes	no				
正常分娩	6	8	14	χ^2	p	
異常分娩	9	8	17	χ^2 検定	0.312605	0.576086 有意差なし
	15	16	31			
○お産の間、こんなこともしていたというように自分の行動に驚きましたか						
	yes	no				
正常分娩	6	8	14	χ^2	p	
異常分娩	10	7	17	χ^2 検定	0.783683	0.376017 有意差なし
	16	15	31			
○お産の間、喜怒哀楽の感情をそのまま出せましたか						
	yes	no				
正常分娩	12	2	14	χ^2	p	
異常分娩	15	2	17	χ^2 検定	0.043417	0.834941 有意差なし
	27	4	31			